

研修レポート1

生薬と公園の視察について

報告者 皆川 鉄也

この度は、本町でも栽培を予定している生薬について主眼を置きつつ、ポンポコ山の景観や遊具等について7月16日～18日にかけて研修を実施したのでその結果について概要を報告します。

有限会社北日本生薬（生薬原料製造販売）は、戦前から気管支炎喘息薬の原料となる「セネガ」に関心を持ち、長い年月をかけ研究した結果、北海道の寒冷地でも栽培が可能と確認され生産されたのが始まりであります。

昭和50年代、転作が奨励されたことによる遊休地の有効活用と本業の稲作に代わる普及作物として生薬が注目され、以来地域の関係者の方々からも深い理解と協力を頂き本格的な経営に乗り出すことになったとのことでした。

会社では農家の皆さんに主力薬草2種目の「トウキ」と「センキユウ」の生産募集を

工場を視察し、生薬原料が一工場で製造される量がこの位なら全体ではどの位になるのか。生薬ブームにうなずけるような気がしたところでした。



薬局等でおなじみの漢方薬

工場内にあるサンプルには、私どもが風邪引きの際よくお世話になっている葛根湯などおなじみの漢方薬も目にする事が出来た。
リース農家には輪作栽培の一作物として他作物との単価を比較し代金を支払う方法がとられ、農家の方々がメリツトが有り有効な方法であると思う。

ポンポコ山と比較するわけではないが、中富良野町のファーム富田のラベンター畑を見て、花の種類、色彩、配列等、又、国营滝野すずらん丘陵公園の遊具についても写真で参考になるかどうかいろいろありますが、まだまだいろいろな施設の見学や工夫の仕方によって来園者に関心を持って



広い栽培圃場

行っており、収穫された葉草は全量工場に搬入された後、一貫作業の基、乾燥調整が行われ、生薬原料として生薬会社に出荷されます。

北海道各地で農作物・高収入作物として製薬会社に出荷されます。

道内では生薬栽培が定着しつつあり、原料生産農業との連携を深め、優良生薬の安定生産、販売に努力しているようです。

北海道ならではの栽培圃場はその広さに目を見張るばかり

ただけるのではと思うところが多くあった研修でした。

私案としてポンポコ山に狸、山村広場にハタハタ模様などの大きなアドバルーン等を数個ずつ上げてみてはいかかなものか。



一面の花畑



ファーム富田で記念撮影

りであり、生薬の香りが空気全体に染み込んでいようなそんな気がしたところでもあります。
最後に代表取締役の佐々木恵一さん曰く、「真剣に最後まで取り組む意欲と努力する生産者であって欲しい」と、「軽い気持ちで取り組むのだつたら最初からやらない方がいい」との言葉がありました。

株式会社「夕張ツムラ」は 管理部・生薬栽培部・製造部・品質管理部があり約20名のスタッフをもって管理運営



説明を受けています



国营滝野すずらん丘陵公園の遊具



研修参加者… 皆川 鉄也

- 皆川 鉄也
- 鈴木 一彦
- 阿部 栄悦
- 福司 憲友
- 丸山 あつ子
- 菅崎 達美